

2026年度 甲南大学 法学部編入学試験 入試問題

学部	学科	試験科目	試験時間	試験日
法学部	法学科	小論文	60分	2025年10月18日

次の2題のうち（【問題1】または【問題2】）を選択し、別紙の解答用紙に答えなさい。  
なお、解答用紙には、問題番号（および設問番号）を必ず記入すること。

【問題1】

民法が規律の対象にする社会関係には、財産に関する関係と家族に関する関係がある。

設問(1)

民法が規律する財産関係においては、市場における商品（財・サービス）の取引をめぐる経済活動が中心となる。民法の基本原則について、市場における商品の取引という観点に関連づけながら、説明しなさい。ただし、「私的自治の原則・契約自由の原則」と「過失責任主義」については、説明しなくてもよい。

設問(2)

契約自由の原則について、次の問いに答えなさい。

- ① 契約自由の原則は、4つの内容からなる。それぞれについて説明しなさい。
- ② ①で述べたそれぞれの自由については、その自由が制限される場合が生じている。どのような場合に、その自由が制限されているか、具体例を挙げて説明しなさい。

設問(3)

民法が規律する家族に関する関係について、次の問いに答えなさい。

第2次世界大戦後に、家族に関する法は、大きく改正された（1947年12月22日公布、1948年1月1日施行）。この改正の前後で、家族に関する法の基本原則は、大きく変更された。どのような点であるかを説明しなさい。

## 【問題 2】

「民主主義」をめぐる以下の三つの設問すべてに詳細に回答しなさい。

### 設問(1)

古代ギリシアのアテナイ民主政は、民主主義の起源の有力候補の一つと言える。紀元前5世紀中頃のアテナイでは、「デモクラティア」と呼ばれる民主政が、理念としても制度としても確固たるものとして構築された。民主主義の「古代的モデル」と呼びうるような、アテナイで繁栄した民主政の理念と制度とはいかなるものであったのか、説明しなさい。

### 設問(2)

民主主義の理念と制度は、古代のアテナイ民主政が没落して以降、歴史の表舞台からは長らく消えることになる。民主主義が本格的に復権し幅広く受け入れられたのは、20世紀半ば以降のことである。この時期に民主主義の「古代的モデル」を批判しつつも、民主主義の復権に理論的に貢献した経済学者として、シュンペーターがいる。シュンペーターの想定する民主主義の市民像や制度の意義について、説明しなさい。

### 設問(3)

現代の民主政治においても、民主主義の「古代的モデル」は完全に消滅したわけではない。民主主義の「古代的モデル」は、現在どのような形で制度化されていると考えられるだろうか。具体的な制度を挙げて説明しなさい。